２型糖尿病に降圧治療は有効

糖尿病患者は平均血圧が高く、血圧の上昇は糖尿病患者における血管障害のリスク因子である。一方、糖尿病患者への降圧治療の是非や目標血圧については議論が続いている。そこで本研究では、降圧治療と血管疾患の関連についてメタ解析を実施し評価した。
1966 年から 2014 年に発表された、糖尿病患者を含めた降圧治療の大規模ランダム化対照比較試験に関する論文を対象とした。バイアスのリスクが低いと判断された 40 試験が選出され、100,354 例が解析の対象となった。メタ解析の結果、収縮期血圧が 10mmHg 低下することにより、死亡、心臓血管イベント、冠動脈性心疾患、脳卒中、アルブミン尿、網膜症のリスクが有意に低下した（相対リスクはそれぞれ 0.87、0.89、0.88、0.73、0.83、0.87）。試験開始時の平均収縮期血圧が 140mmHg 以上と 140mmHg 未満の試験に分けて解析したところ、140mmHg 以上の試験では降圧治療により死亡、心臓血管イベント、冠動脈性心疾患、心不全のリスクが有意に低下した（交互作用の $p < 0.1$）。降圧薬のクラス別の解析では、脳卒中と心不全以外の転帰については有意な違いはなかった。
したがって、2 型糖尿病患者では、降圧治療により死亡や心臓血管イベント、脳卒中、網膜症などのリスクを改善することが示された。これらの知見は、2 型糖尿病患者への降圧薬の使用を支持するものである。
出典：Journal of American Medical Association. 2015; 313(6): 603-615